

ひろまれ念佛

vol.9 (ver.3.0)

2020年3月発行
山中温泉 白鳳凰山 恩栄寺



ごあいさつ

今年も雪の少ない冬になりました。それでもやはり春の訪れは嬉しいものですね。

さて、本年1月1日をもちまして、恩栄寺第十六代住職となさせていただきました。まだまだ慣れない新米住職で、皆さまにご迷惑をおかけする場面も多々あるかと存じますが、精一杯努めて参りたい所存です。皆さまにおかれましては、これまでと同様、ご指導ご鞭撻べんたつをいただければと思います。今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

日下賢裕

◆法要のご案内◆

春季彼岸会法要

3月はお彼岸の法要を予定しておりましたが、コロナウィルスの流行を考え、

本年の春季彼岸会法要は、中止とさせていただきます。

また来月からの法要は、様子を見ながら勤めさせていただきますので、

ご案内やお寺のホームページをご覧ください。

ご理解の程、よろしくお願ひ申し上げます。

恩栄寺

「住職継職法要」のご案内

2020（令和2）年5月24日
午後2時より



お忙しい事と思いますが、
皆様どうぞお参りください。

詳細につきましては、
後日改めてお知らせをいたします。



四月九日	花まつり法座
五月二十四日	住職継職法要
六月	春季永代経法要
七月	佛教婦人会追悼会
八月	お盆会法座
九月	秋季彼岸会・永代経法要
十月	佛教婦人会報恩講
十一月一～三日	報恩講
十二月	仏教婦人会 納会
一月	ご正忌報恩講

年間のご法座予定

若坊守の 子育て(られ?)日記⑩



編集後記

住職になって早々に、お彼岸の法要を中心とする、という判断に迫られました。大事な法を取りやめると、これは苦渋の決断でしたが、万が一のことを考えてのことと、ご容赦くださいませ。また来月からの法要は、様子を見ながらできる限りお勤めしたいと思っております。

ゼロから味わう仏教講座

第九回 涅槃に至る道 「正見」

前回まで、お釈迦さまが目覚められた「四諦」そして「四法印」という真実について味わってきた。簡単にまとめると、私達自分が誤った考えにとらわれていることで、苦悩を抱えている(=一切皆苦)のであって、正しい物の見方(=諸行無常・諸法無我)をしていけば、その苦悩から離れた安心の境地(=涅槃寂靜)に至ることができるということです。

今回からは、その苦悩から離れた「涅槃」あるいは「さとり」とも呼ばれる境地に至る道、について味わっていきたいと思います。その道は「四諦」のところでご紹介しました「道諦」にあたるものになりますが、具体的には「八正道」と呼ばれます。「八正道」

とは、「正見・正業・正命・正精進・正念・正定」という八つの正しい行いのこと。これらを実践することで、自己中心的な心、煩惱から離れ、そして苦悩から離れた心静かな境地(=「涅槃」へと至ることができるということになります。それはその「八正道」について、少しずつ見てまいりましょう。

まず「正見」とは、物事を正しく見つめるということです。「如実知見」という言葉でも表されますが、自分の価値判断に依らず、偏った見方をせず、物事の真実の姿をありのままに見つめるということです。その真実の姿とは「諸行無常」であり「諸法無我」のことです。この2つを基準にして物事を

見つめていくことが、「正見」ということになります。



ところが、これはとても難しいことです。ありのままに見つめているつもりでも、そこには必ず「私」の見方がつきます。例えば「リンゴ」を見つめた時、目で受け取った刺激から、私たちは一瞬でいろいろなことをイメージします。リンゴに良い思い出がある人はそれを思い出したり、食べたいたいという欲求を搔き立てられる人もいれば、見たくないと考える人

もいるでしょう。そのように、見るという行為から、いろんなことを無意識に連想してしまう。「正見」というのは、その無意識に起こるいろんな思考を止めて、「そこにリンゴがある」という事実のみを見つめるということです。そしてその「リンゴ」は、変化の中にあるものに過ぎず、また様々な条件(=縁)が整うことでものの前にあるものに過ぎないと見つめ、目の前にある「リンゴ」にとらわれることのないように見ていくのが「正見」ということになります。そしてこの「正見」は「八正道」の中でも特に中心となるもので、他の七つの正道の実践が「正見」に納まっていくと言われています。